

アビスパ福岡株式会社について

令和5年6月

目 次

I 法人の概要	・ ・ ・ ・ 1
1 法人の概要	
2 組織	
II 事業報告	・ ・ ・ ・ 3
III 決 算	・ ・ ・ ・ 4
1 損益計算書	
2 株主資本等変動計算書	
3 貸借対照表	
IV 事業計画（方針）	・ ・ ・ ・ 7

I 法人の概要

1 法人の概要

(1) 法人名 アビスパ福岡株式会社

(2) 主要な事業内容

サッカーの興行、サッカースクールの運営ならびにサッカー指導者の育成および
プロサッカーチームに関する各種オリジナルグッズの販売

(3) 設 立 平成6年9月29日

(4) 資本金 371,552千円 (令和5年1月31日現在)

(5) 本市出資の目的

Jリーグの地域に根ざしたホームタウン制により、本市のスポーツ文化の振興、
青少年の育成並びに地域経済の活性化を目的として出資

2 組織

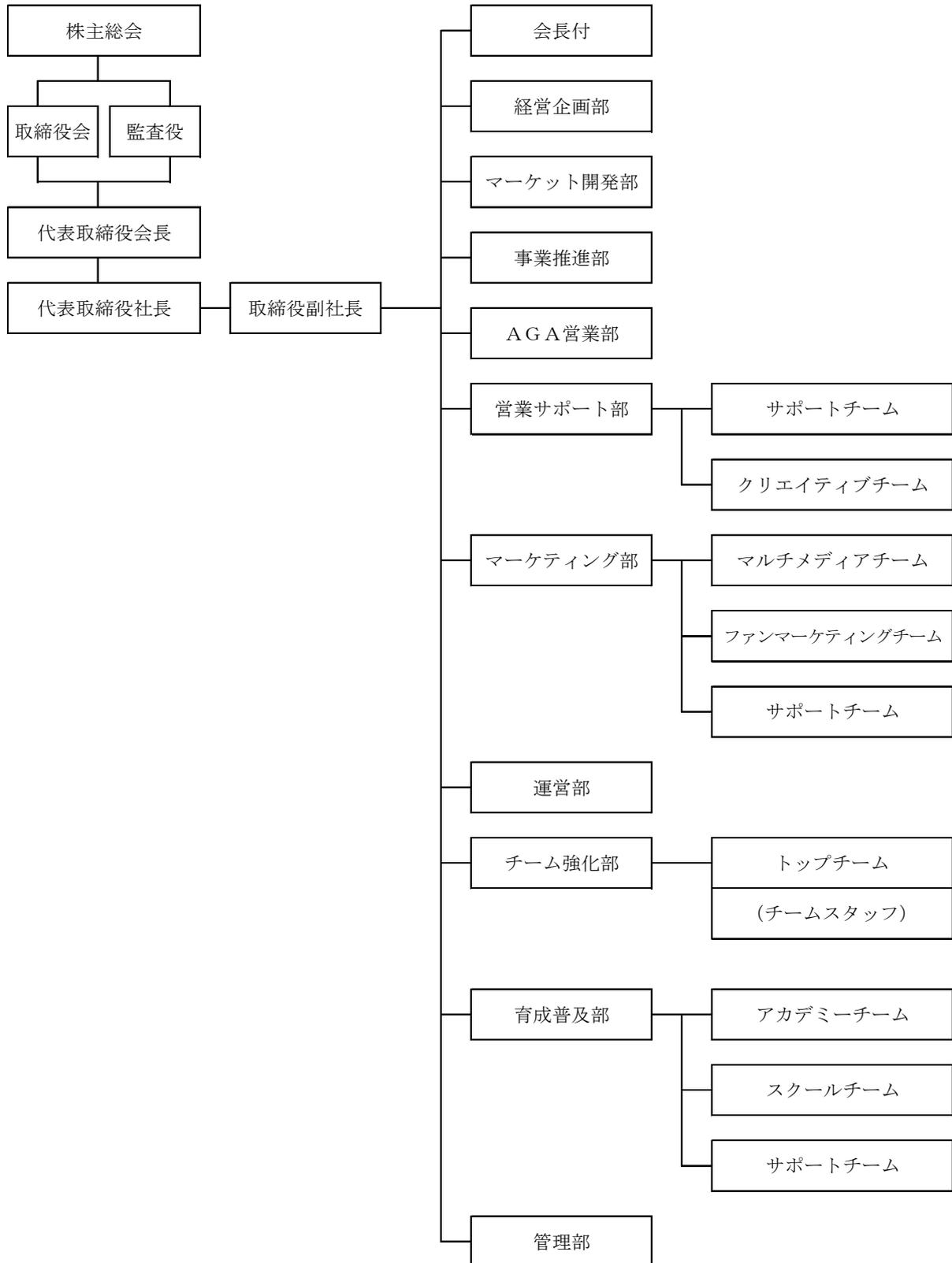
(1) 役員名簿

(令和5年4月26日現在)

役 職	氏 名	備 考
代表取締役会長	川 森 敬 史	APAMAN 株式会社 常務取締役
代表取締役社長	古 屋 卓 哉	Apaman Network 株式会社 SST 推進部 部長
取締役副社長	立 石 敬 之	シント＝トロイデン VV CEO
取 締 役	吉 尾 春 樹	株式会社システムソフト 代表取締役社長
取 締 役	廣 塚 浩 一 郎	株式会社エイジェックグループ 地域価値創造本部 執行役員
取 締 役	関 敬 介	コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社 バンディング事業本部 九州地区統括部長
取 締 役	三 宅 宏 治	福岡市 市民局理事
取 締 役	内 村 芳 郎	九州電力株式会社 常務執行役員 ビジネスソリューション統括本部地域共生本部長
取 締 役	大 久 保 昭 彦	株式会社西日本新聞社 取締役 メディア戦略・スポーツ担当、メディア戦略局長
取 締 役	恒 松 孝 二	株式会社九電工 理事 人事労務部九電工アカデミー学長
取 締 役	川 原 武 浩	株式会社ふくや 代表取締役社長
取 締 役	村 中 悠 介	合同会社 DMM.com COO
取 締 役	渡 邊 誠	株式会社プロスタッフ 代表取締役
監 査 役	高 木 富 士 男	株式会社福岡銀行 総務部長
監 査 役	滝 本 英 明	株式会社西日本シティ銀行 総務部長

(2) 組織図

(令和5年4月26日現在)



II 事業報告（令和4年2月1日から令和5年1月31日まで）

2022シーズン、世界中で猛威を振るった新型コロナウイルス感染症の影響が残る中、地元福岡の経済界・自治体、後援会及びアビスパ・グローバル・アソシエイツ（AGA）よりクラブ経営全般に及ぶ継続的な支援があり、今期のスポンサー社数は前期の854社より減少したものの、786社となった。

入場者数については、新型コロナウイルス感染症の影響によりシーズン当初は収容人数に制限のある中でのホームゲーム開催だったが、段階的な収容人数制限の緩和もあり、1試合当たりの平均入場者数が前期の4,962人から今期は6,194人となり、1,232人増加した。また、年間入場者数は前期の10万9千人から今期は16万3千人に増加した。

グッズ収入については、オーセンティックユニフォーム販売や勝利記念グッズ等の販売を強化し、前期1億7千2百万円から今期1億7千4百万円に増加した。

チームについては、前期にクラブ史上初めてJ1残留を果たし、今期は引き続き長谷部監督体制のもとリーグ戦10位以内、昨年の8位以上の順位を目標としてシーズンに臨んだ。2022 FIFAワールドカップの開催に伴う変則日程の中、シーズンを通して粘り強い戦いをみせ、14位でシーズンを終了し、前期に引き続きJ1残留を果たすことができた。

育成普及部門のアカデミーについては、新型コロナウイルス感染症の影響により、活動が制限される中、選手の健全な育成と安全を念頭に置きながら、トレーニング等を実施し活動を継続した。年代別の日本代表及び候補に数名が選出されるシーズンだったが、U-18のプレミアリーグ昇格、各年代の大会優勝という目標を達成することはできなかった。スクールについては、新型コロナウイルス感染症の影響により、活動が制限される中、前期のスクール生人数1,414人から今期は1,385人に減少したが、チアスクールを含め24校において、地域に密着した事業運営に継続して取り組んだ。

ホームタウン推進活動については、年間延べ1万7千人を超える方に参加いただいております、コーチ派遣型の「アビススクール」のほか、ブラインドサッカー啓発活動や福岡都市圏と協働し健康教室等に取り組むとともに、フレンドリータウンとしては16の自治体と協定を締結する等、当クラブの経営理念である「子どもたちに夢と感動を」「地域に誇りと活力を」の実践を続けている。

こうした活動により、今期の売上高は、広告収入12億4千3百万円（対前期比53%増）、入場料収入4億8千万円（対前期比54%増）、その他の収入を加え、合計28億2千9百万円（対前期比33%増）となった。営業費用は、28億1千5百万円（対前期比8%増）となり、営業利益は1千4百万円、経常利益は1千6百万円、当期純損失は1百万円となった。

来期は広告収入、入場料収入をはじめ増収を実現する体制を構築し、クラブの経営安定化を図るとともに、J1定着を目標にチームづくりに取り組む。また、U-12からトップチームに至るまで「感動と勝ちにこだわる」Avi s p a S t y l eをさらに進化させ、アグレッシブに活動していく。

Ⅲ 決算

1 損益計算書（令和4年2月1日から令和5年1月31日まで）

（単位 千円）

科 目	金	額
売 上 高		2,829,804
売 上 原 価		2,533,039
売 上 総 利 益		296,765
販売費及び一般管理費		282,355
営 業 利 益		14,410
営 業 外 収 益		
受 取 利 息	2	
受 取 家 賃	784	
為 替 差 益	2,660	
前 期 損 益 修 正 益	1,038	
そ の 他	1,674	6,159
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	3,276	
そ の 他	655	3,931
経 常 利 益		16,638
特 別 利 益		
助 成 金 収 入	4,101	4,101
特 別 損 失		
新 型 コ ロ ナ 関 連 損 失	21,006	21,006
税引前当期純損失(△)		△266
法人税、住民税及び事業税		1,215
当 期 純 損 失 (△)		△1,481

※記載金額が千円未満非表示のため合計額が合わない場合がある。

2 株主資本等変動計算書（令和4年2月1日から令和5年1月31日まで）

（単位 千円）

	株 主 資 本					純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金	株主資本合計	
		資本準備金	その他 資本剰余金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金		
前期末残高	360,094	269,104	161,760	△1,145,764	△354,804	△354,804
当期変動額						
増資	11,457	11,457			22,915	22,915
当期純損失(△)				△1,481	△1,481	△1,481
当期変動額合計	11,457	11,457		△1,481	21,434	21,434
当期末残高	371,552	280,562	161,760	△1,147,245	△333,370	△333,370

※記載金額が千円未満非表示のため合計額が合わない場合がある。

3 貸借対照表（令和5年1月31日現在）

（単位 千円）

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	491,545	流動負債	918,835
現金預金	259,466	一年内返済長期借入金	76,596
売掛金	198,532	短期借入金	10,458
商品	15,043	一年以内償還社債	20,000
未収入金	2,557	未払金	56,235
前払費用	13,681	未払法人税等	5,226
その他	2,263	未払消費税等	57,199
		預り金	15,479
		前受収益	674,815
		その他	2,825
固定資産	374,896	固定負債	280,976
有形固定資産	214,315	長期借入金	250,660
建物	195,635	社債	20,000
建物附属設備	90,868	リース債務	6,666
構築物	35,877	その他	3,650
工具器具備品	80,398		
土地	100,000	負債合計	1,199,812
リース資産	14,161		
減価償却累計額	△302,625	(純資産の部)	
無形固定資産	720	株主資本	△333,370
ソフトウェア	720	資本金	371,552
投資その他の資産	159,861	資本剰余金	
出資金	10	資本準備金	280,562
長期前払費用	158,998	その他資本剰余金	161,760
その他	852	利益剰余金	
		その他利益剰余金	
		繰越利益剰余金	△1,147,245
		純資産合計	△333,370
資産合計	866,441	負債及び純資産合計	866,441

※記載金額が千円未満非表示のため合計額が合わない場合がある。

IV 事業計画（方針）

アビスパ福岡は、「子どもたちに夢と感動を」「地域に誇りと活力を」を基本理念とし、ホームタウン活動などを通じて、地域に根差した市民クラブを目指している。

今期は、クラブの経営の安定と、J1定着及び今後J1で継続して戦っていく体制づくりに加え、アカデミーサポート体制の強化及びスクール育成指導の質的向上を図るなど、市民クラブとして地域への奉仕と満足してもらえるサービスの提供にさらに努めていく。

また、クラブが目指すべき経営モデルの定義と実現に向けてのアクションプランの策定のため、専門の経営コンサルティング企業等から継続的にアドバイスを受けるなど、スタジアムへの来場者数の増加をはじめとした各種施策に取り組んでいく。

今後も、ホームタウン活動を継続し、多くの方々と関わりながら、アビスパ福岡が真の市民クラブとして、多くの市民に愛され、地域の誇りとなるよう、活動していく。